高校生の観光事業構想コンテスト

観光甲子園

NEXT TOURISM CONTEST 2022

空飛ぶクルマ部門

＜準決勝事業企画書＞

タイトル

タイトル 10～20文字	MY HOME TOWN
サブタイトル 20～30文字	～To a beloved and beloved local～

チーム情報

都道府県	三重県
高等学校名	三重県立宇治山田商業高等学校
チーム名	NEXUS
担当教職員名	佐々木　崇・奥野　純

メンバー名	学年	性別	氏　　名	担　当	代表
メンバー①	3	女	青木　優雅	脚本	
メンバー②	3	女	岡　花美	撮影	
メンバー③	3	男	中村　倭	編集	
メンバー④	3	女	前田　裕美	企画	○
メンバー⑤					

※ 1チームのメンバーは3～5名
※ 担当欄にはチームにおける担当業務（企画、調査、取材等）を記入
※ 代表欄にチーム代表者1名に「 ○」を入れる

【企画前提】

〈三重県の課題〉

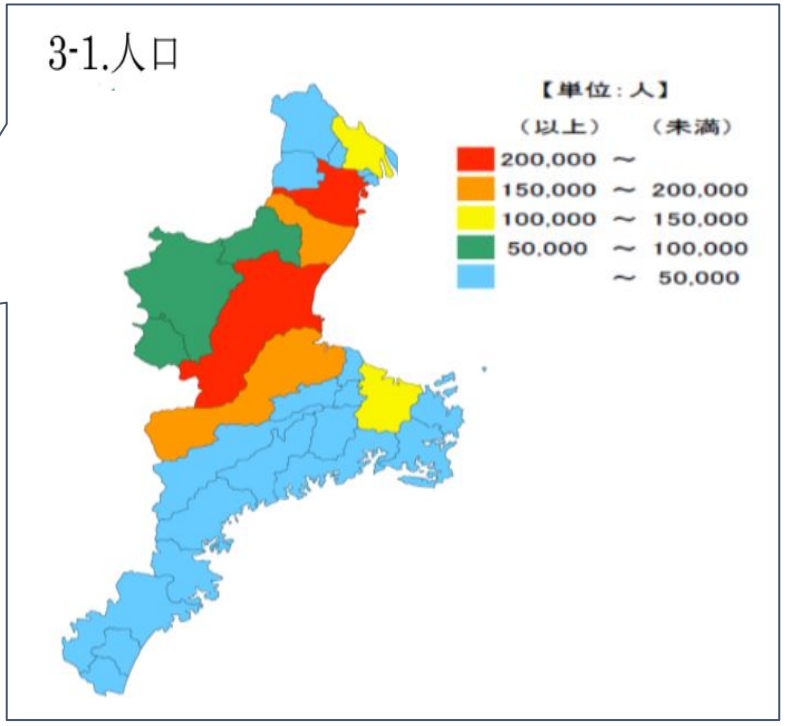
・三重県は縦長の県であるため、
　北と南で人口・高齢化率や経済格差が異なる。

⇒「東京」と「地方」の差が激しい日本の縮図ともいえる。

・観光地の形態の違い→観光客数の違い。
　北：遊びを「体験」できる　　例)鈴鹿サーキット
　南：見て楽しむ　　例)展望台、自然、歴史的文化

人々の意識「モノ」から「コト」に変化
「その土地ならではの体験がしたい」という観光客増加

⇒ 南部の景色を見て楽しむに「体験」を加えていくことが必要



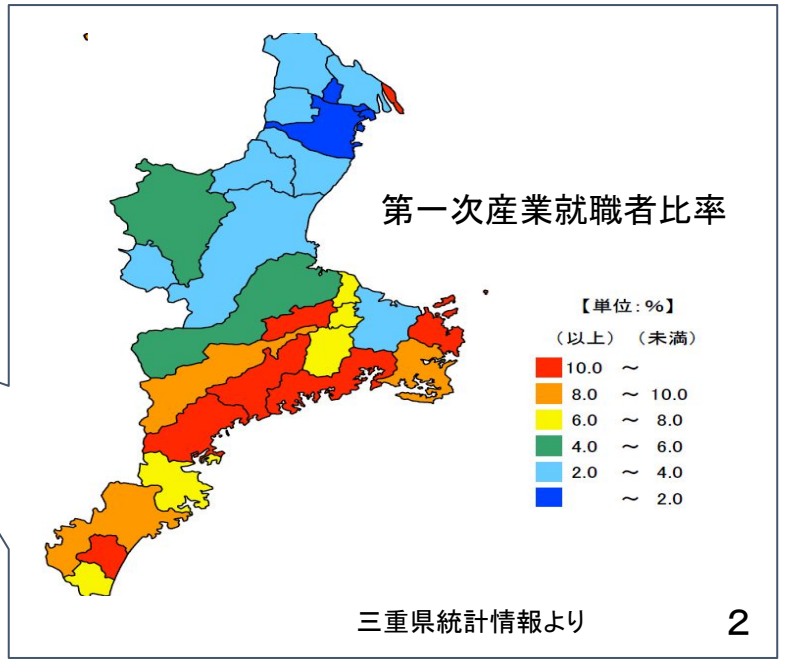
〈伊勢志摩の課題〉

・少子高齢化
・過疎化の深刻化
・職種の選択の少なさ

〈伊勢志摩の課題〉

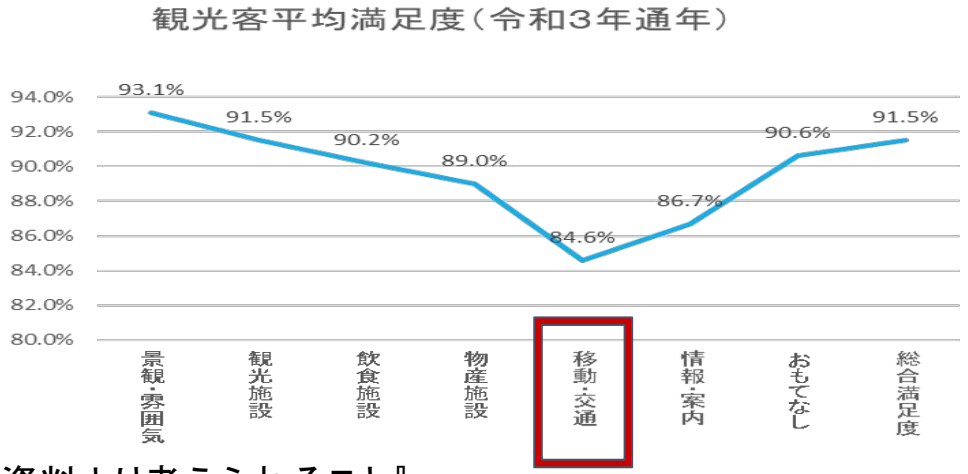
・自然が豊か
・歴史的文化が多い
・第一次産業、特に漁業が盛ん

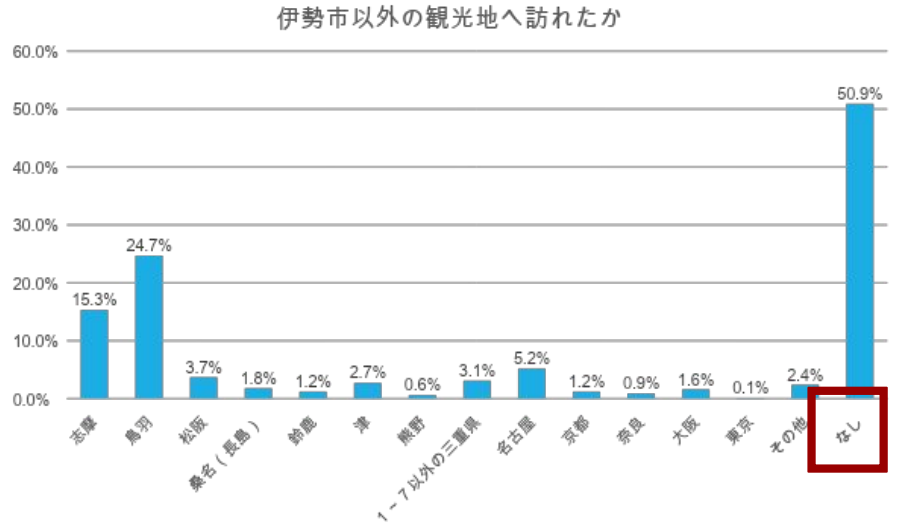
提案：地域の強みである第一次産業である漁業を
　　生かした「体験」を提供してはどうだろうか



〈観光業の課題〉

伊勢志摩でも観光客が多く集まる伊勢市に注目してみました。





『資料より考えられること』

・全体的に満足度は高い。その中でも、特に移動・交通に不便を感じている。

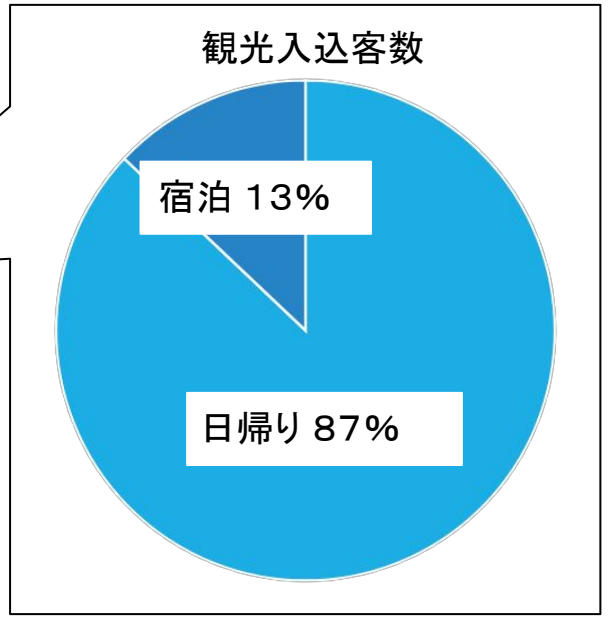
⇨ オーバーツーリズムの原因のひとつである

・伊勢市以外の観光地へ訪れない人が多い

⇨ 多くの人の目的が伊勢神宮の参拝である

⇨ 宿泊形態が変化している
以前は志摩市に泊まり伊勢市へ出かけるのが一般的だった

⇨ 伊勢志摩の強みである漁業にふれ合う機会がない



・観光客の訪れは十分であるが、伊勢神宮の周辺に集まっている。
＝オーバーツーリズムの解消する必要がある

・移動手段のひとつとして、空飛ぶ車を活用する

伊勢市観光調査書より提供

【事業内容】

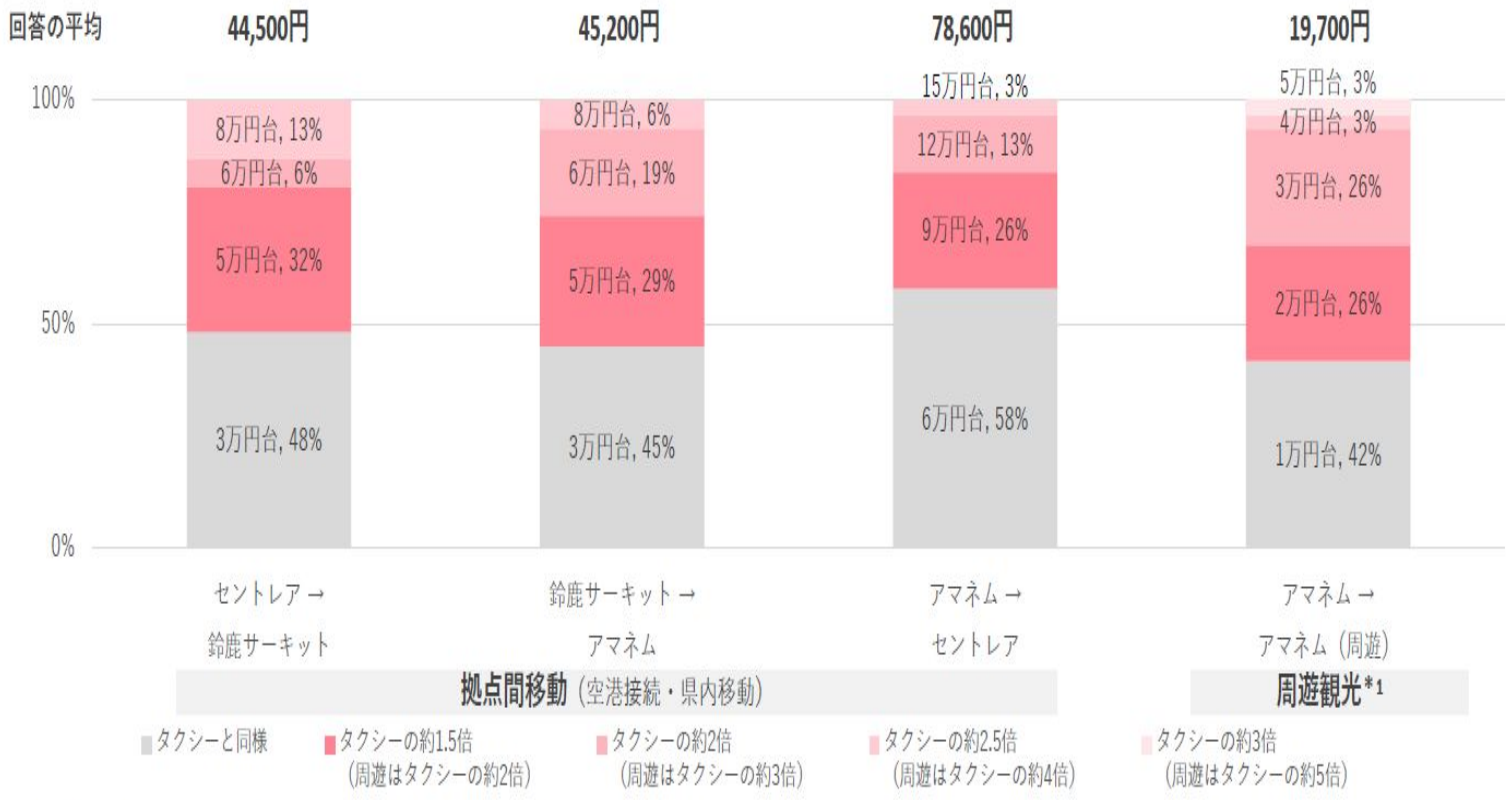
大半の回答者は最も安い運賃を選択する一方で、残る半分は「タクシーより高い運賃」での利用意思があると回答

高くても利用価値がある

確認事項

✓ 空飛ぶクルマの移動サービスの価格は、**幾らまでなら受け入れられるか？**

何れのルートにおいても半数前後の回答者が回答の内、最も安い「タクシーと同等の運賃」での利用を希望。
一方、残る半数は「タクシーより高い運賃」を選択し、タクシー運賃の1.5倍、2倍、2.5倍での利用意思があると回答



Q.空飛ぶクルマによる移動サービスの運賃として、許容できる上限の金額を選んでください

*1 目的地までの移動としての飛行に、遊覧を含めた最低価格。

JAL「空の移動革命」
実現に向けた移動需要創出
業務委託 調査報告書

〈テーマ〉:観光客にも地元の人にも愛される土地に
〈目的〉 :観光産業を盛り上げ、地域産業の活性化

地域

〈事業内容〉

狙い:オーバーツーリズムの解消

そのためには……

・空飛ぶ車を移動手段として活用 →移動・交通手段の不便さの解消

＋

・志摩、鳥羽をいってみたいと思える場所に変える
→地域の魅力を生かした町づくり が必要

地域の魅力を生かした街づくり(例)

・空き家を活用した体験施設をつくる
例)海女の疑似体験 → ・漁業に触れてもらう機会 が生まれる

・地域の食材を生かした食事処
例)伝統料理の提供 → ・地域の伝統料理をよく知る人には 高齢者が多い
→高齢者の働く場所になるのではないか。
→伝統の継承の場になるのではないか。
・サービス業を生み出すことで若者の働き場所になる
→若者の定着につながるのではないか。

・離島で「体験」
例)キャンプ、温泉 → ・人が少ない→「解放感あふれる体験」を提供

〈未来の事業ビジョン〉

第一段階

イノベーターやオピニオンリーダーといった
興味を持ってくれた人向けに
こちらから提案したツアーを提供

空飛ぶ車をひとつのアクティブとして利用し空から
の景色を楽しんでもらう

第二段階

限定や新しいものへの興味といった
心理的戦術を用いて
アーリーマジョリティを引き込み
持続的かつ緩やかな集客を目指す

自由にツアーを組んでもらい
顧客のニーズに合わせた
観光スポットに訪れてもらう

最終段階

顧客満足向上のために
土地の活性化・再整備をし、
何度も来ていただける町を目指す

公共交通機関とともに移動手段として利用し交通の便を効率化

〈事業のメリット〉

・オーバーツーリズムの解消
　→移動・交通の不便さの解消

・知られざる地域の魅力発信
　→地域創成に貢献

・観光産業による地域産業の発展
　→地域活性化に貢献

〈事業の課題〉

・地域住民との協力体制
　→コミュニケーションを積極的にとる
　例）説明会、討論会、試乗体験会

・第一次産業の負担が増える可能性がある

【SDGsとの関わり】

・「空飛ぶ車に乗る」を観光の一部として楽しむ　→
普段の旅行にもう一つ価値を生み出す。

・産業開発
→良さである自然や静かさを壊さずに開発

・新しいビジネスが誕生
→活気が生まれる→産業が活性化

・新しいビジネスが誕生
→運営する人が必要→雇用を生む。

・少人数制
→持続的に観光客を確保することが可能。

・離島へ訪れる
→海洋ごみや富栄養化の様子を実際に見る
→今の海洋汚染の現状を知り、学ぶ

・電気の力で走る空飛ぶ車を活用する
＝二酸化炭素が削減できる
→サスティナブルな社会の実現

・オーバーツーリズムを防ぐ
→ごみ、騒音問題、景観の損失、
環境破壊を防ぐ

ターゲット

9―4　2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続性を向上させる。

11―2　2030年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子供、障碍者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、すべての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。

14―b　小規模・沿岸零細漁業者に対し、海洋資源および市場アクセスを提供する

14.7　2030年までに、漁業、水産養殖及び観光の持続可能な管理などを通じ、小島嶼開発途上国及び後発開発途上国の海洋資源の持続的な利用による経済的便益を増大させる。

などに貢献できる。

【イメージ】

オーバーツーリズム

伊勢神宮周辺に
人が集まっている

・一つのアクティブとして楽しむ
・交通手段として活用

空飛ぶ車に乗って普段は味わえない空からの景色や豊かな自然を見て自分の「好き」を発見する

限定や新しいものへの興味といった心理的戦術を活用。

継続的に観光客を

離島との架け橋
そして
人と人との架け橋に

観光×地域産業の力で
住み続けられる街を
戻りたいと思える街を

地域内外との交流や活気溢れる街を実現する

空き家を観光資源として利用

ゲストハウス　等

季節の味を見て楽しめる
その土地ならではの「体験」を提供

見てキレイ体験して楽しい

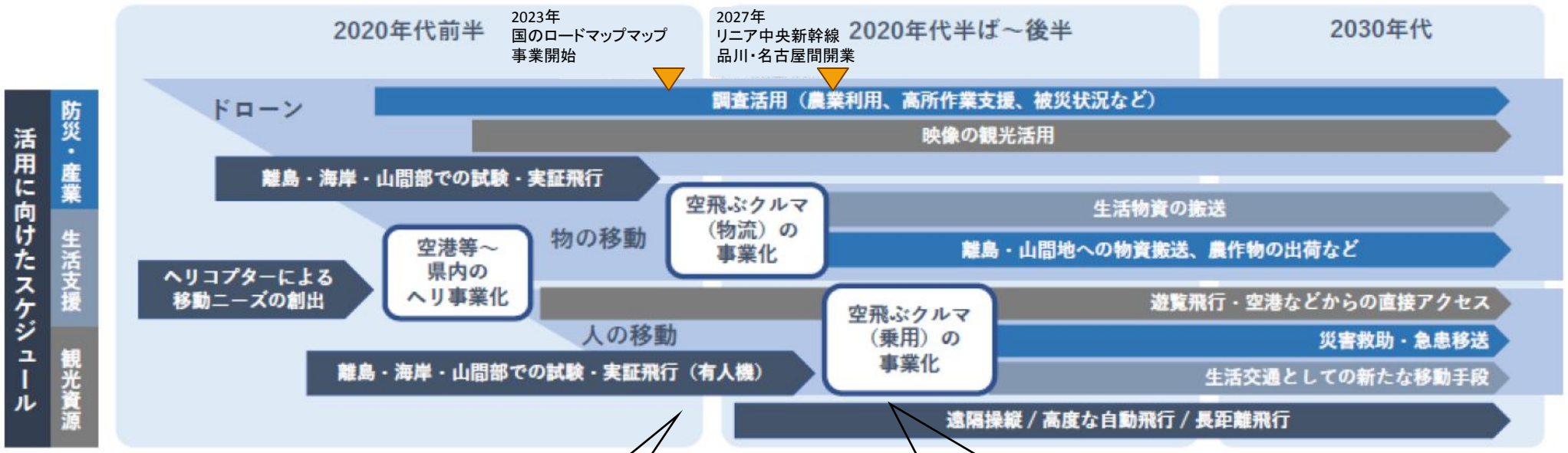
【ロードマップ】

〈三重県独自のロードマップ参考〉

三重県政
150周年記念祭

三重県の人々に向けて発信

乗用実用化実行



日本国際博覧会
（大阪・関西万博）

空飛ぶ車がどのようなものであるか知ってもらう

乗用実用化

住民や企業の方との調整

三重県デジタル事業推進課より提供

【課題整理】

1. 法律

現在の法律では空飛ぶ車＝航空法が適応
例）空飛ぶ車・・低空飛行なため法律に触れる

→ 近い将来の空飛ぶ車活用に向けた
早期的な法整備が必要（航空法or道路交通法）

2. 天候

飛ぶ日が天候によって左右される
（台風，強風，濃霧，雪 etc…）

→ 地元の交通機関を利用した
地域に根ざした代替観光プランを提案
（電車，船，バス）

3. 住民理解

住宅地の上空を飛行することへの不
安・クレーム

→ コミュニケーションを積極的にとる
例）説明会、討論会、試乗体験会

4. 少人数制

メリット　過疎地域のオーバーツーリズムを
防ぐことができる

→ 少人数制かつ予約制にする
→**希少価値**が付き、
持続的で緩やかな集客の増加を見込める

デメリット　一度に多くの人を呼べないため
利益を得ることが難しい

→ 対策：客一人当たりの単価を高く設定するなど